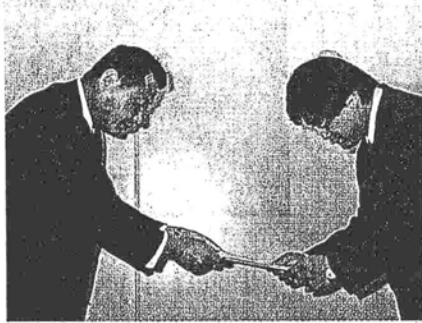




NPO法人に 助成金を贈呈

損保ジャパン記念財団

NPO法人設立を支援する損保ジャパン記念財団は本年度、県ポーター協会（谷島邦雄会長）への助成を決め、二十六日、下妻市下妻丁の損保ジャパン茨城西支社（佐藤宏文支社長）で贈呈式を行った。



佐藤支社長（左）から助成金を手渡される谷島会長
下妻市下妻丁

同協会は発達に遅れなどがあつた子どもを持つ親と、その親を支援する指導者で組織。指導者は、子どもの発達に合わせ家族が子どもを教育する「ポーターシッププログラム」の普及に努めてい

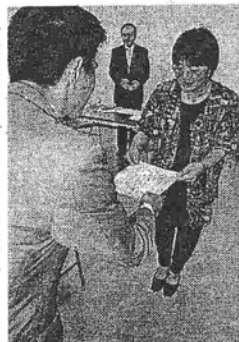
14. 茨城新聞 (8/27)

STSにNPO 設立資金を助成

STSにNPO設立資金を助成
損保ジャパン記念財団
財団法人損保ジャパン
記念財団（平野浩志理事長）は十七日、松本市大

手三の損保ジャパン松本総合支社（伊藤美知也支社長）で、障害者自律支援センター運営委員会・財団の理事長代理として伊藤支社長が桑原代表（代表世話人・桑原由紀さん）にNPOに目録を贈り、「社会福祉の先駆的な役割を担っ

15. 市民タイムス (8/18)



桑原代表（右）に助成金30万円の目録を贈る伊藤支社長（左）

てほしい」と、今後の活躍を期待した。桑原代表は「やりたいことは山ほどある。障害者に対する偏見をなくし、理解が広がるようにしていきたい」と話していた。
STSは松本市内を中心に活動する団体で、精神障害者の生活支援を目標とし、七月には市内初の精神障害者共同作業所

の応募の中から全国で七十団体を選考し、県内ではSTSが唯一の助成対象団体となつた。



「引きこもりがちな知的障害児の方々が、健常者と同じように生きていく権利を認め、社会参加の機会を創出したい」と、中見理事長は「本当に楽しいクッキーを作ろうと活動してきた。NPO化して、より地域に密着し、社会に協力できる活動にしていきたい」と述べた。

16. 静岡新聞 (8/30)

沼津の企業組合に NPO設立助成金

損保ジャパン
記念財団が贈呈
損保ジャパン記念財団（東京都）は二十九日、本年度のNPO法人設立資金の助成金三十万円を、企業組合イルカ（沼津市、中見宰理事長）に贈った。

同社静岡支店（静岡市）で行われた贈呈式では、中嶋寛支店長と写真右が中見理事長に助成の決定通知書を手渡した。同組合は知的障害児の



母親らが二〇〇〇年一月に設立し、障害者の就業の場づくりを目指してクッキーなどの製造販売を行っている。九月末にNPO法人化に向けた申請を行う予定。



17.



どの団体の方も非常に熱心で本業をもちながらの活動であったり、少ない人数や資金で色々苦勞されながらも地道にこつこつと活動していることなどをお聞きし、たいへん頭の下がる思いがしました。
(中部業務部
総務課 主任 田中幹夫さん)



親保ジャパン記念財団
NPO法人設立助成金贈呈式



18. 京都新聞 (9/9)

■NPO法人化へ助成金
草津市心身障害児者連絡協議会(井上庄二郎会長)は、NPO法人(特定非営利活動法人)化に向け、このほど財団法人・損保ジャパン記念財団(東京都)か



ら設立資金の助成を受けた一写真。
市内の3団体と5施設でつくると協議会は、1986年3月に発足。障害のある人の自立を支援している。NPO法人にしていきた年内をめどにNPO法人化を目指しており、今回、同財団に設立の趣旨が認められ、助成金30万円を受けた。協議会の正田隆生事務局長は「地域に親しまれるNPO法人にしていきたい」としている。

大阪・兵庫地区
社会福祉助成金

贈呈式を開催



障害者や高齢者福祉団体に對し、特定非営利活動法人(NPO法人)設立のための資金助成をしている(財損保ジャパン記念財団は、2005年度の社会福祉助成金を70団体(1団体に30万円)、2100万円を決定したが、その大阪・兵庫地区の贈呈式が、9月1日午後2時から損保ジャパン大阪ビル11階特別会議室で行われた。当日は、主催者側の損保ジャパンから豊(うてな)祐一郎関西総務部長、松田剛総務課長、損保ジャパン記念財団から富沢泰夫事務局長、今年度の助成先の8団体(2団体は欠席)から11人の関係者が出席した(写真左)。



70団体に総額2100万円贈呈



豊氏



富沢氏

損保ジャパン記念財団の「NPO法人設立資金助成」は、民間福祉活動を推進するために1999年から実施し本年度で7回目。一般法人よりも設立が容易なNPO法人の設立を支援することで、法人化した福祉系団体が地域社会から認知され、さらに活発な活動を展開していくことで地域の社会福祉に大きく寄与することを目的としている。

7年間の助成金累計は、640団体に対し合計1億9000万円。77年の財団創設から社会福祉助成は28回目(NPO法人設立助成は7回目)、社会福祉助成金の累計は本年度分を含め11

億9000万円にのぼっている。主催者側を代表して豊祐一郎関西総務部長は、損保ジャパンの記念財団が設立された経緯や目的について述べ、「今年度は28年目になるが、助成の倍率が10倍を超えるために、助成対象を絞る必要が生じた。99年から特定非営利活動促進法に基づ

て、事業の特色である①助成の申請手続きが簡単②NPO法人の申請検討中である段階から助成を申し込める③設立のための資金であれば使途は自由④「使い勝手のよい助成金」として紹介。応募の傾向と選考に当たった際の選考委員会の考え方について述べた。次に豊部長から助成決定通知書の交付が行われ、各助成先団体の代表者に手渡された。続いて各団体から今後の抱負として、「家族会が中心となり、精神障害者の小規模作業所を立ち上げ利用者も増えてきた

が、運営基盤が脆弱(せいじゃく)だ。精神障害児の一人ひとりが、よりよい暮らしができるように努力していきたい」「障害者と健常者が共に働いている。内情は苦しいが、組織をきっちりするために応募した」「会費も取らず、掛かったお金は頭割りを出し合っているために資金がゼロという状態。今回の支援が決まった時に、堺市からも委託事業が決定した。頂いた助成金を生かすように頑張る」などが語られた。大阪・兵庫地区の助成先団体は次のとおり。

▽精神障害者小規模作業所フレンドリーバル(大阪市住之江区)
▽特定非営利活動法人びーす(現・堺おもちゃ図書館ぼっぼ)(堺市)
▽肢体不自由児者連所つみきハウス(尼崎市)
▽ひやしんす(神戸市北区)
▽共働事業所 陽だまり(篠山市)
▽障害者小規模作業所 生き生き生活支援センターPatich(神戸市兵庫区)
▽なないろのハート障害者協働事業所(川西市)
▽尼崎中央家族会(尼崎市)

し、事業の特色である①助成の申請手続きが簡単②NPO法人の申請検討中である段階から助成を申し込める③設立のための資金であれば使途は自由④「使い勝手のよい助成金」として紹介。応募の傾向と選考に当たった際の選考委員会の考え方について述べた。次に豊部長から助成決定通知書の交付が行われ、各助成先団体の代表者に手渡された。続いて各団体から今後の抱負として、「家族会が中心となり、精神障害者の小規模作業所を立ち上げ利用者も増えてきた

が、運営基盤が脆弱(せいじゃく)だ。精神障害児の一人ひとりが、よりよい暮らしができるように努力していきたい」「障害者と健常者が共に働いている。内情は苦しいが、組織をきっちりするために応募した」「会費も取らず、掛かったお金は頭割りを出し合っているために資金がゼロという状態。今回の支援が決まった時に、堺市からも委託事業が決定した。頂いた助成金を生かすように頑張る」などが語られた。大阪・兵庫地区の助成先団体は次のとおり。

▽精神障害者小規模作業所フレンドリーバル(大阪市住之江区)
▽特定非営利活動法人びーす(現・堺おもちゃ図書館ぼっぼ)(堺市)
▽肢体不自由児者連所つみきハウス(尼崎市)
▽ひやしんす(神戸市北区)
▽共働事業所 陽だまり(篠山市)
▽障害者小規模作業所 生き生き生活支援センターPatich(神戸市兵庫区)
▽なないろのハート障害者協働事業所(川西市)
▽尼崎中央家族会(尼崎市)

関西第一・第二本部の贈呈式では、寄付先団体から日頃の活動で苦労していること等を一言ずついただきました。各分野及び地域で地道な活動をされている方のお話を直接お聞きして、あらためて感銘を受け助成の意義を強く感じました。また贈呈式後は、和やかな情報交換会が行われ、大変有意義な時間となりました。中でも障害者の作業所では、「せっかく商品を作っても売れる場所がなくて困っている」という話を聞き、ぜひ大阪ビルで実施するバザーでも出品してもらえばと思いました。今後も、今回受賞された団体活動の発展を暖かく見守っていききたいと思います。(関西総務部 総務課 業務主任 寺川真紀子さん)

20. 読売新聞 (8/18)



NPO法人設立助成
府内2団体選ぶ
損保ジャパン記念財団(東京都新宿区)は、全国70の障害者・高齢者福祉団体に對して、NPO法人の設立資金として各30万円、計2100万円を助成することを決めた。府内の対象団体は以下の通り。
精神障害者小規模作業所「フレンドリーバル」(住之江区)・特定非営利活動法人「びーす」(堺市深井清水町)



損保ジャパン・大阪 助成金贈呈式開く
 損保ジャパン記念財団は、平成17年度の社会福祉助成金を全国70の障害者・高齢者・福祉団体に、重要な役割を担っていますので、福祉の充実に向け率先して活躍されることを期待しています」と挨拶した。

また、決定通知書が各団体に手渡され、代表者らが現在の活動内容や今後の抱負について語った。

として各30万円、合計2100万円の助成を決定したが、そのうち大阪・兵庫地区の助成先への贈呈式を9月1日午後2時から損保ジャパン・大阪ビルで開催した。

当日は、大阪2団体、兵庫4団体の代表者ら11名と、同財団の富沢泰夫事務局長、損保ジャパン関西総務部の豊祐一郎部長、同総務課の松田剛課長の3名が出席。富沢事務局長が今回の助成先選考の経緯などを説明し、「これからのわが国の発展は市民活動の活性化にかかっています。中でもNPO法人はけん引役であり、重要な役割を担っていますので、福祉の充実に向け率先して活躍されることを期待しています」と挨拶した。

NPO法人化助成 中京の福祉団体へ 損保ジャパン財団
 財団法人損保ジャパン記念財団(東京都)はこのほど、本年度のNPO法人(特定非営利活動法人)設立資金助成金の交付先を決定した。京都府内では京都市中京区の「心病む人々のステップアップ支援実行委員会」(加藤博史代表)が選ばれた。

助成金は、全国の障

害者や高齢者の福祉団体を対象にNPO法人化による活動推進を支援する目的で六年前から始め、本年度は全国七十団体に各三十万円、総額二千百万円を助成した。

京都から選ばれた同実行委は、精神障害者をはじめ障害者の就労支援活動

動を拡充するため、本年度中のNPO法人設立を目指している。



淀江作業所に 助成金を贈呈

損保ジャパン記念財団

損保ジャパン記念財団は、精神障害者小規模作業所「淀江作業所」(米子市淀江町淀江)にNPO法人設立資金を助成するに当たり、同市西福原一丁目のホテルサンルート米子で贈呈式を行った。助成金三十万円が、



県内では淀江作業所が選ばれ、同社鳥取支店(鳥取市今町二丁目)の鬼沢豊伸支店長が同作業所の利用者、八田一明さんと職員の大田百子さんに社会福祉助成決定通知を贈呈した。

鬼沢支店長(右)から通知を受け取る八田さん(中央)と大田さん

大田さんは「自分たちの思いを認めていただいととてもうれしい」と喜んでいました。鬼沢支店長は「地域の活動をこれから話していた。」



NPO法人設立資金助成金

福祉2団体に
助成金を贈る
損保ジャパン財団
損保ジャパン記念財団
(理事長・平野浩志損害保

同財団は、NPO法人
設立支援助成を一九九
九年度から毎年度実施。本
年度は応募二百二十九団
体に対し、全国七十団体
に各三十万円を贈る。

助成は、特定非営利活
動法人(NPO法人)の
設立支援が目的。関係者
七人が出席し、光内俊雄
支店長が「立派な法人と
して、地域社会の福祉向
上に尽くしてください」と
あいさつ。精神障害者
を対象にした作業所運営
の「鴨方希望の会」(鴨
方町)と、「身体障害者
ケア&サポートセンター
風」(赤磐市)の代表者
に、助成決定の通知書を
手渡した。



助成金贈呈式

財団の本年度の助成団体
が決まり、徳島県内で唯
一選ばれた美馬市脇町脇
の小規模共同作業所「シ
ヨップうだつ」(森本昇
代表)に助成金30万円が
贈られた。贈呈式では、
損害保険ジャパン徳島支
店の谷口正治支店長が森
本代表に助成決定通知書
と目録を手渡した。
同財団は、1977年
から社会福祉の向上を目
的に助成を始め、99年か
らはNPO法人の設立支
援のための助成を行って
いる。

補助・助成
NPO法人の設立を支
援する損保ジャパン記念

意見交換では「なおみの会」で製作している作
品を発表し販売することで団体の活動範囲を広
げていきたいとの要望がありました。その中で、
販売する場を損保ジャパンで提案できないか、と
いう団体支援の話もできました。

平成15年度助成団体である「ドリドリ」会から
藤田睦世会長と他1名にもお越しいただき、NP
Oを立ち上げるにあたっての留意点やNPO会
計の苦労談もお聞かせいただきました。

またNPO活動取材し、その実態を市民に知
らせるハンドブック作りをしている北九州市立
大学「キャンパスステーション」の学生2名：船
津美幸さんと執行秀一さんにオブザーブとして
参加していただき「贈呈式の雰囲気やご活躍され
ている方々のお話を聞くことができ、勉強になり
ました。」とのお礼状を後日いただきました。
(北九州支店 業務主任 前田綾さん)



「はるかぜ」は、和紙の紙すき(ハカキ・
名刺の作成)やめがねクリーナーや喫茶
「オルゴール」での接客及び調理といっ
た仕事を中心に運営されている共同作
業所です。

施設代表者の方は、福岡県の春日市に
は、身障者共同作業所が「はるかぜ」1
施設しかないという現状で、もっと多く
の身障者が集えるようNPO団体として認
可される必要があるとの展望をお持ち
でした。そのような施設に社会貢献活動
の一環として寄与することができたの
は、記念財団が設置されているからこそ
と、感謝いたしました。

また、助成金の授与式では代表者の方
でなく施設の子供たちが受け取り、身体
全体でうれしさを表現していました。その
、素直な身障者の方々の姿に、日常の
慌しさから解放されたような晴れ晴れ
とした気持ちで帰社することができま
した。

(九州第1業務部総務課
業務主任 初 洋子さん)

二十八日、春日市下白水
南の「共同作業所はるか
ぜ」に、特定非営利活動
法人(NPO法人)の設
立資金として三十万円を
贈った一写真。



共同作業所はるかぜに
助成金30万円を贈呈
損保ジャパン記念財団
財団法人「損保ジャパ
ン記念財団」(東京)は

「はるかぜ」で開かれ
た贈呈式で、西田幸人・
損保ジャパン福岡中央支
店長は一さらに活発な活
動を展開し、地域の社会
福祉の向上に貢献される
ことを期待します」とあ
いさつ、助成決定の通知
書を手渡した。
はるかぜの辻誓子代表
は「仲間たちが地域で働
き、安心して暮らせるよ
う頑張っていきたい」と
話した。

同財団は全国の福祉団
体に助成金を贈ってお
り、今年も七十団体が対
象。「はるかぜ」は現在、
県にNPO法人化を申請
中。

◆損保ジャパン記念財団がNPO法人の設立を助成。全国70団体に對し、特定非営利活動法人(NPO法人)設立のための資金計2100万円の助成を決めた。鹿児島県内の助成団体は聴覚障害児の支援活動を行うNPOデフNet。かしま(鹿児島市)。25日、同社鹿児島支店(同市)で30万円を贈った。同助成は今年7回目。累計で640団体に計1億9000万円を贈っている。



福祉作業所に
助成金30万円

損保ジャパン財団

佐賀市
鳥栖市

損保ジャパン記念財団(平野浩志理事長)は二十四日、鳥栖市の知的障害者福祉作業所「コスモス夢工房」(山内照代所長)にNPO法人設立助成金三十万円を贈った。

佐賀市の損保ジャパン佐賀支社であった贈呈式で、佐藤彰彦九州中央支店長が山内所長に助成通知書を手渡した。山内所長は「通所事業の充実やグループホームへの展開など、NPO化で活動の幅が広がられる」と話していた。



佐藤彰彦支店長(左)から通知書を受け取る山内照代所長(右)と佐賀市の損保ジャパン佐賀支社

同財団は、障害者や高齢者福祉団体のNPO法人化を平成十一年度から助成しており、本年度は全国二百二十九件の応募の中から七十件が選ばれた。県内からは今回を含め計十団体が支援を受けている。



障害者福祉団体へ
助成金通知書贈呈

損保ジャパン記念財団

【諫早】損保ジャパン

記念財団(本部東京、理事長・平野浩志損害保険ジャパン社長)は三日、社会福祉活動の一環で、特定非営利活動法人(NPO法人)の設立資金として、諫早市八天町の障害者福祉団体「マンボウの会」(庄子裕子代表)に助成金交付の決定通知書を贈呈した。同財団は、損害保険ジャパンの関連団体。NPO法人設立費用として一九九九年から助成金を交付。本年度は全国の障害者・高齢者福祉団体、計七十団体に設立資金として各三十万円を贈る。マンボウの会は、諫早市で障害者自身が店舗型の小規模作業所を運営しているほか、十月から障害者がパソコン指導を実施する予定。



助成金決定通知書の贈呈式
マンボウの会事務所



に助成金交付の決定通知書を贈呈した。

同財団は、損害保険ジャパンの関連団体。NPO法人設立費用として一九九九年から助成金を交付。本年度は全国の障害者・高齢者福祉団体、計七十団体に設立資金として各三十万円を贈る。マンボウの会は、諫早市で障害者自身が店舗型の小規模作業所を運営しているほか、十月から障害者がパソコン指導を実施する予定。

損害保険ジャパン長崎支店の潮崎学支店長がマンボウの会の事務所を訪問。庄子代表に「福祉の向上に寄与し、市民活動のリーダーとして活躍してほしい」と、決定通知書を手渡した。同代表は「団体なのでとても助かる。これからやりがいを持って生き生きと働きたい」とお礼を述べた。

県内で同財団の助成を受けるのは三例目。

さいき未来21さんは、身障者の交流の場を提供する目的で設立された団体です。身障者が集まって交流できる喫茶店風の素敵なスペースを確保されているほか、楽器演奏のファミリーコンサートやパソコン教室等の活動をされています。代表の坪根さん、担当者の横原さんほか幾人もの人々の情熱に支えられ、運営されています。初めてお会いする我々にも熱心に語りかけていただき、県南地区において、自分達の手で身障者の交流の場を作りたいとの熱い思いがひしひしと伝わってきました。手作りのお菓子、CD2枚も頂戴し帰ってきました。運営に携わる方々がいきいきと活動されている姿を拝見し、その人生の充実感にうらやましささえ感じました。非常に感慨深い一日となりました。(大分支店 リーダー 半沢 宏志さん)

佐伯の団体にNPO法人設立への助成金
損保ジャパン財団
佐伯市内のボランティア団体「さいき未来21」(坪根邦子代表、五十人)に九月二十八日、損保ジャパン記念財団(平野浩志理事長)からNPO法人設立のための資金三十万円が助成された。



坪根代表(右)に助成金贈呈

助成金贈呈式が、市内大手町のふれあいプラザフロアレスであった。同財団理事長代理者として、損害保険ジャパン大分支店の泉達哉支店長が

「地域社会の福祉向上に寄与することを期待します」と述べ、坪根代表に助成決定通知書を手渡した。さいき未来21は、フロアレスを拠点に、ボランティア活動をしている。今後も在宅障害者への支援事業や相談業務を行うため、NPO法人設立の準備をしている。損保ジャパン記念財団では民間の福祉活動を推進しようと、一九九九年からNPO法人設立のための資金助成をしている。ことしも全国七十団体に助成するが、県内ではさいき未来21の団体だけ。

